


一般社団法人 日本LD学会
会 報 第 72 号

Japan Academy of Learning Disabilities

[事務局]
 〒320-0043
 宇都宮市桜 3-1-6 吉田ビル 2F
 TEL.028-666-0533
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/>

読み書きの困難がある A さんとの出会い



大阪医科大学 LD センター

西 岡 有 香

私が A さんに出会ったのは彼が5歳の時でした。アセスメント結果から、形の認識と音韻意識に弱さがあることがわかっており、入学前から読み書きの学習でのつまずきが予想されていました。就学前から1年生の間は平仮名の読み書きの習得に重点をおいた指導を行いながら、ことばで表現する力、理解する力を伸ばす支援を続けました。

国語の本読みは家で覚えて行ったので、1年生の時には読みのたどたどしさが目立ちにくく、算数の文章題が始まるまで、担任に A さんの読みの課題を理解していただくことはできませんでした。学習態度が形成されており、まじめに学習する A さんは、担任にとって全く困らない子でしたが、A さん自身は非常な努力を重ねていました。

漢字学習はさらに大変でした。学習の結果、読めるようになって読みの速度の改善はむずかしく、学年があがりもうボトムアップでは学力の保証は厳しいという時に、DAISY (デージー) 教科書があることを伝えました。私が初めて DAISY に出会った目白大学での LD 学会第9回

大会から8年、教科書がデージー化されたら有効なのに、とずっと思い続けていたことを実証してくれたのが A さんでした (参照: デージー教科書使用例とその効果及び今後期待すること 本誌 7 p)。

その A さんが中学生になります。デージー教科書は今以上に彼にとって必要な「道具」(補助手段) となるでしょう。中学校へ向けた報告書を作成しながら、先生方は彼がデージー版教科書を使うことを理解してくれるだろうか、テスト時間の延長や、口頭試問で学習達成度を測ることを考えてくれるだろうか、と心配はつきません。

小学校中学年でディスレクシアだとわかった子どもたちは既に社会人で、彼らには DAISY 教科書も間に合わず、中学校の先生方の理解も得られず、暗黒の中学校時代を過ごしました。人とは違う学び方ができる「道具」があることによって、表現力と理解力が育ち、何よりも「できる」という自尊心と次への意欲が育ちます。

様々な学び方の違いを理解し、それに応じた柔軟な対応をすべての学校に切望します。